

新年度を迎えて

校長 安藤 徹

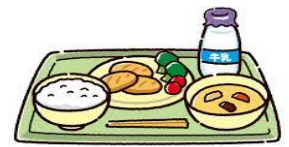


岩戸養護学校の令和4年度がスタートしました。

岩戸養護学校長として3年目を迎えました安藤 徹と申します。今年度もどうぞよろしくお願いたします。

さて、今年度の岩戸養護学校ではA部門（肢体不自由教育部門）に8名、B部門（知的障害教育部門）に40名の計48名の新入生を迎え、学校全体では131名の生徒が在籍し、新年度の学校生活が始まりました。部門ごとではA部門が12名、B部門が119名と、昨年度・一昨年度に比べA部門の生徒が少し増えました。

さて、今年度は「岩戸養護学校のマイナーチェンジ元年」としてこの4月から予定通り完全自校調理による給食が開始されることになりました。体育館下に建設された厨房にはピカピカの真新しい最新式の調理器具や備品が配備され、16日の給食開始を今や遅しと待っているようです。体育館下という限られたスペースに建設された食堂・厨房ですの



で、食堂については全生徒が一堂に会して食事ができるスペースを確保することは残念ながらできませんでしたが、3年間の在学中に少なくとも1年間は食堂で給食をとる機会が持てるような工夫はしていきたいと考えています。

そして今回の岩戸養護学校での給食開始は単に学校が昼食を提供するというだけでなく、給食に関連させながら生徒自身が自分の食生活や地産地消について考えたり、世界的な課題であるSDGs（食品ロスなど）について学習したり、様々な角度から日常の教育活動に関連付けさせていけるものと思います。



また、食堂建設前の計画段階では「地域の方々との交流の場としての食堂に」という未来図も描かれていましたが、スペース的にも現在のコロナの状況もありなかなか難しいというのが現実ではあります。ただ、そのような中「給食介助員」として学校周辺の新岩戸町内会の方々を中心に給食の配膳や運搬・片付けなどをお手伝いいただけることになりました。ご協力に心より感謝申し上げます。

ところで、岩戸養護学校の今年度の学校運営の柱としては昨年度に引き続き「見える化⇒わかる化⇒できる化」を目指していきたいと考えておりますが、今年度はさらに『「自律した生徒」の育成と「自律した学校作り」を目指して』というサブテーマを掲げ、「自立」していくためにもまず必要となる「自律」について考え、生徒一人ひとりが学習活動の中で「できた」とか「わかった」という自己肯定感や充実感・達成感を感じられることにより、それが心理的安定感につながり、「自分の内面をコントロール（制御）したりマネジメント（管理）できる＝自律できている」ようになっていくことも目指していきたいと考えています。

最後となりましたが、保護者の方々、岩戸養護学校を支えていただいている地域の方々、日ごろより岩戸養護学校の教育活動にご理解・ご協力いただきありがとうございます。

それではまたあらたな1年間、どうぞよろしくお願いたします。

令和4年4月1日